

卒業してからの文献検索・文献管理

■講習内容(45分)

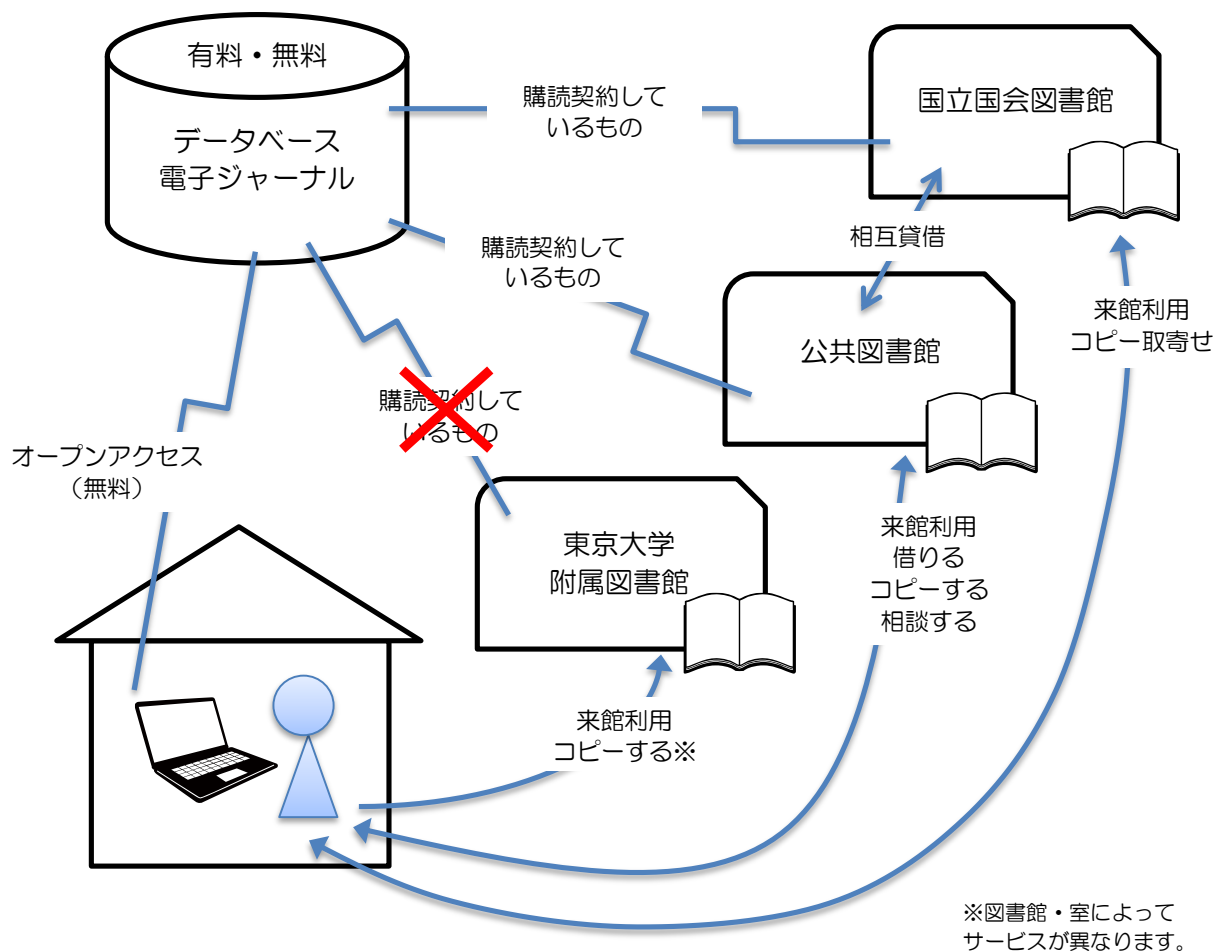
- ◆無料公開のデータベース、電子ジャーナル
 - ー オンラインで論文・資料を探す
- ◆図書館の利用について
 - ー 東京大学の図書館
 - ー その他の図書館(公共図書館・国立国会図書館など)
- ◆文献管理(本・雑誌、論文等の情報を保存してリスト作成)
 - ー RefWorks、Mendeley、EndNote basic など

*** 注意 ***

東大で使えるデータベースや電子ジャーナルの多くは、大学が契約しているために東大所属者のみ利用可能。

東京大学在籍中	卒業・修了・退職後
東京大学が有料で契約しているデータベース・電子ジャーナル Web of Science, JSTOR, IEEE 等	!!! 利用できない!!!
誰でも無料で利用できるデータベース・電子ジャーナル	利用できる

それでも、実は色々なことができます。



この資料に関するお問合せ(東京大学所属者限定) : 東京大学 本部情報基盤課 [学術情報リテラシー担当]
 TEL: 03-5841-2649(内線:22649) メール: literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

【参考】データベース・電子ジャーナルの入口

GACoS(ガコス)

【学外 OK】⇒<https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/index.html>
 ※「ガコス」「gacos」で検索するとたいいてい 1 番上にヒットします。



- ◆学外からもアクセスできます。
- ◆「学外 OK」を指定して検索すると、学外からも利用可能なデータベースの一覧が表示されます。
- ◆東京大学所属者向けの講習会テキストでも、ツールの使い方などの参考になります。

The screenshot shows the GACoS homepage with several callouts:

- Top navigation:** A red box highlights the '講習会教材' (Seminar Materials) link in the top menu.
- Search area:** A red box highlights the search input field and the '検索' (Search) button. A callout box says: '講習会教材はここから 一部の教材は学内限定です。' (Seminar materials are from here, some are campus-only).
- Database list:** A red box highlights the '学外からの利用' (Access from outside campus) section in the database list, which includes links for '学外アクセス SSL-VPN Gateway' and '学外アクセス 認証Gateway サービス'.
- FAQ:** A red box highlights the '電子ジャーナル: 利用上の注意' (E-journals: Usage notes) link in the FAQ section.
- Search filters:** A red box highlights the '学内のみ/学外OK など' (Campus only/Access from outside campus, etc.) dropdown menu.

講習会への参加や、データベースの使い方相談等のサービスは東京大学所属者向けです。

講習会教材はここから 一部の教材は学内限定です。

学外からの利用
 学外アクセス SSL-VPN Gateway
 学外アクセス 認証Gateway サービス

こちらは学外者向けではなく、東京大学所属者が学外から利用するためのアクセスサービスです

The close-up shows the '学内のみ/学外OK など' dropdown menu with the following options:

- 指定なし
- 指定なし
- 学内のみ
- 学外OK** (highlighted with a red arrow)
- 学外OK(手続き必要)
- GACoSに新規登録

Next to the dropdown are '検索' (Search) and 'クリア' (Clear) buttons.

「学外 OK」は、東京大学所属でなくても学外から利用できるものです。選択して「検索」ボタンを押してみましょう。

※「学外 OK(手続き必要)」は学内者向け東京大学所属者がキャンパスの外から使うものです。学外者は利用できません。

無料公開のデータベース、電子ジャーナル

無料で公開されているデータベースや電子ジャーナルは、東京大学を離れても利用できます。電子ジャーナルも「オープンアクセス」になっている論文が増えており、分野によっては無料で見られる論文がたくさんあります。また、一部 PPV(Pay per view)により有料で閲覧できる論文もあります。

(参考) 無料公開の電子ジャーナルについて

⇒オープンアクセスとは:東京大学学術機関リポジトリ(UTokyo Repository)

https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?page_id=30&lang=japanese

オンラインで論文・資料を探す(GACoS 検索結果より抜粋)

参考のテキストは、東京大学所属者向けに作成されたものですが、検索のコツ等は学外の方も使えます。

論文の情報を入手するサイト(データベース・検索エンジン)

全文の入手はサイト内ではできない場合が多く、情報についているリンク等をたどって探す。あるいは紙の資料がどこにあるか別途探す ⇒p.4, 5「図書館の利用について」も参照

■CiNii Articles: 国内の大学紀要や学会誌掲載の論文・全分野

⇒参考: CiNii Articles 講習会テキスト <https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/text.html>

■Google Scholar: 学術資料検索専用の Web 検索エンジン・全分野

⇒参考: Google Scholar 講習会テキスト <https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/text.html>

※検索結果画面からの Full Text@UTokyo は東京大学所属者向けのサービス

■PubMed: 英語/医学・生命科学系の論文

⇒参考: 医学系文献検索講習会テキスト <https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/text.html>

■ERIC: 英語/教育学系の論文

○無料データベースの中には、有料の論文を出版社の許可なく公開している海賊版論文サイトも存在します。合法的に公開された論文を見つけるためのツールとして、unpaywall・Kopernio といったブラウザ用アドオンがあります。[unpaywall] <https://unpaywall.org/> [Kopernio] <https://kopernio.com/> (Chrome、FireFox に対応)

○ハゲタカジャーナル(predatory journal)に注意!

ハゲタカジャーナルとは、オープンアクセスの出版モデルを悪用し、著者から出版投稿料を得ることを目的として適切な査読を行わない粗悪なオープンアクセス誌です。投稿時だけでなく引用する際にも、チェックリスト(Think Check Submit)などを利用してジャーナルの信頼性を確認するようにしましょう。

[Think Check Submit] <http://thinkchecksubmit.org/translations/japanese/>

論文そのものを検索するサイト(オープンアクセスジャーナル)

※一部有料のタイトルもあり。

■J-STAGE (日本国内・全分野):

国内の学協会誌の電子ジャーナル公開プラットフォーム。「フリー」「オープンアクセス」のアイコンが付いているものは無料公開。

■Directory of Open Access Journals (DOAJ) (全分野):

オープンアクセスの学術誌を集めたサイト。きちんと査読が行われているかなどを審査し、信頼できる雑誌のみ掲載されている。

■PLOS (医学、自然科学)、BMC (生物・医学):

査読付きオープンアクセス誌を発行する出版社の検索プラットフォーム。

■PMC (生命科学):

アメリカ国立衛生研究所 (NIH) にある国立医学図書館内の部署である国立生物工学情報センター (NCBI) が運営するオープンアクセス論文アーカイブ。

その他

- **東京大学学術機関リポジトリ(UTokyo Repository)** : 東京大学の研究成果(論文等)を公開
- **東京大学学術資産等アーカイブズポータル**: 東京大学のデジタル化された各種コレクションを横断検索
- **JAPAN SEARCH**: 日本国内の幅広い分野のデジタルアーカイブを横断検索
- **政府統計の総合窓口 (e-Stat)**: 日本の政府統計

有料の個人向けサービス

- **JapanKnowledge**: (辞書・事典) ※有料、個人契約可能
<https://japanknowledge.com/personal/>
- **医中誌パーソナル Web**: (日本語/医学・生命科学系) ※有料、個人契約可能
https://www.jamas.or.jp/service/ichu_p/fee.html
- **JSTOR**: (英語/人文・社会科学系)
<https://www.jstor.org/>
 個人向けの有料サービスや、一か月で6件まで閲覧可能な無料サービスもあります。
 詳しくは、Support > Independent researchers
 ⇒<https://support.jstor.org/hc/en-us/sections/115001405788-Independent-Researchers>

図書館の利用について

オンラインで資料が入手できなくても、お近くの図書館を活用してみましょう。
 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、サービス内容が通常と異なる場合があります。ご利用前にウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。

東京大学附属図書館の利用

東京大学の学部を卒業された方、大学院を修了された方は、「東京大学附属図書館入館証」を作成することができます。電子ジャーナルやデータベース、無線 LAN 等の利用や文献取り寄せはできません。利用条件や手続きは、図書館・室によって様々です。最初に下記 URL を参照してください。

【東京大学附属図書館 卒業生の方へ】

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/contact/alumni>

【東京大学総合図書館 利用案内】「卒業生・修了生の方」を参照

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide>

■ **東京大学 OPAC**: 東京大学附属図書館の蔵書目録

https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/opac_search/

※卒業/退職後は **MyOPAC** を利用できません。

※来館して資料を利用する場合は、図書館ごとに利用の時間や利用手続き等が異なります。

あらかじめ目的の資料の所蔵館を OPAC で確認し、所蔵する図書館に連絡の上ご来館ください。

次の所属機関図書館の利用

他の研究機関へ進学・就職する方は、通常、その機関の図書館で文献検索支援や文献取寄せ等のサービスが受けられます。内容は機関により異なります。進学・就職後の所属機関へお問合せください。

都立・区立などの公共図書館の利用

自治体の公共図書館で、データベース利用支援や講習会等の「ビジネス支援」を行っている機関が増えています。また国立国会図書館、大学図書館からの文献取寄せサービスを実施している場合もあります。データベース等を購入している図書館もあります。詳細は各図書館へお問合せください。
(参考)ビジネス支援図書館推進協議会 <http://www.business-library.jp/>

蔵書は各図書館の **OPAC** 等で検索できます。

■**カーリル**: 国内の公共図書館・大学図書館の蔵書情報と貸出状況をまとめて検索

<https://calil.jp/>

※大学図書館(特に私立)はほとんどが学外者へのサービスをおこなっていませんが、地域で相互利用協定を結んでいる場合があります。

■**東京都立図書館**: 画面右側に、都立・区立・市町村立図書館等の統合検索

<https://www.library.metro.tokyo.jp/>

■**日本図書館協会の図書館リンク集**: 公立図書館・私立図書館等のリンク

<https://www.jla.or.jp/link/tabid/95/Default.aspx>

国立国会図書館の利用

満 18 歳以上の人は誰でも利用でき、公共図書館や大学図書館を経由してのサービスも行っています。「登録利用者制度」によって、個人で「遠隔複写サービス」等のサービスを利用することもできます。館内で利用できるデータベース・電子ジャーナル等もあります。

【利用者登録について】 <https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html> (2021.1.13 現在)

【オンラインサービス一覧】 <https://www.ndl.go.jp/jp/use/service/index.html> (2021.1.13 現在)

■**NDL オンライン**: 国立国会図書館の蔵書目録

<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

デジタル化された資料の一部は、そのまま閲覧できます。

■**リサーチナビ**: 調べ方案内

<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

調べたいものから調べ方を検索できるサイト。国立国会図書館で所蔵する紙の資料や、オンラインのサイトも紹介してくれます。

海外の図書館

クレジットカード払いで複写取り寄せができるサイトもあります。また、デジタル化された資料を閲覧できる場合もあります。

■**Explore the British Library**: 英国図書館

<http://explore.bl.uk>

■**Library of Congress Online Catalog**: アメリカ議会図書館蔵書目録

<https://catalog.loc.gov/>

■**Library Hub Discover**: 英国・アイルランドの学術機関・専門機関図書館

<https://discover.libraryhub.jisc.ac.uk/>

■**Karlsruher Virtueller Katalog (VKV)**: ドイツ語圏(ドイツ、スイス、オーストリア)をはじめとした欧米の総合目録

<https://kvk.bibliothek.kit.edu/>

■**WorldCat**: 世界の図書館横断検索 ※東京大学 OPAC でもタブを切り替えて検索できます

<https://www.worldcat.org/>

文献管理：情報を保存してリスト作成

◆ 文献管理ツール：文献データベースの検索結果等を取り込んで整理し（または手元の資料の情報を直接入力も可能）、参考文献リストを自動作成することができるツールです。

RefWorks (東大で購読契約、卒業生プログラムあり)

従来の RefWorks: <https://www.refworks.com/refworks>

新 RefWorks: <https://refworks.proquest.com/>

※在籍中にアカウントを作成している必要があります。

東京大学が RefWorks を契約している期間は、在学中と同じサービスをご利用いただけます。

RefWorks ログイン後の設定（またはプロフィール更新）画面から、卒業後に使用するメールアドレスに変更してください。また、ユーザータイプを「Alumni」へ変更してください。

◆東京大学で使っていた文献管理ツール「RefWorks」のデータを保存したいときは？

従来の RefWorks の場合：

(参考) 次の所属機関でも RefWorks を契約している場合【バックアップと復元を行う】

- ① 東大のアカウントで RefWorks ログイン後、メニューバー「ツール」⇒「バックアップと復元」をクリック。
- ② バックアップ画面でオプション等を選択して「バックアップの実行」ボタンをクリック。
- ③ データを保存。
- ④ 次の所属機関のアカウントで RefWorks ログイン後、保存したデータを使い、同メニューから「復元」を行う。

レコードをエクスポート

References to Include From **すべてのレコード**: 選択したレコード (0) ページ (25) すべてのレコード (121)

Select an Export Format: Bibliographic Software (EndNote, Reference Manager, ProCite)

Need [ヘルプ](#) exporting reference

レコードをエクスポート

エクスポートの場合
添付ファイルは
保存できません！
(バックアップの
場合は可能)

【他の文献管理ツールへデータを移す】

- ① RefWorks ログイン後の画面でメニューバー「レコード」⇒「エクスポート」をクリック。
- ② エクスポート画面で対象とフォーマットを選択して「レコードをエクスポート」ボタンをクリック。
- ③ データがブラウザ上に表示されるので、「名前を付けてページを保存」で保存。
- ④ 移す先のツールの画面でインポート作業を行う(手順はそれぞれのツール画面で確認)。

新 RefWorks の場合：

ProQuest[®] RefWorks Default

すべてのレコード 追加 フォルダへの割当 共有 文献目録の作成 削除

【他の文献管理ツールへデータを移す】

- ① 新 RefWorks ログイン後の画面で「共有」⇒「参考文献をエクスポート」をクリック。
- ② フォーマットに「RIS 形式」を選択して「エクスポート」ボタンをクリック。
- ③ 移す先のツールの画面でインポート作業を行う(手順はそれぞれのツール画面で確認)。

Mendeley (無料ツール)

<https://www.mendeley.com/>

※東大の機関版を利用している場合は、卒業等で所属しなくなってから一定の猶予期間後に無料版に切り替わります。切り替わる前に、Web上のデータ容量やPrivateグループを整理する必要があります。

無料版になると、Web版の容量は100Gから2Gに、グループの作成は100人までのグループ数1000から、25人までのグループ数5に減ります(2021年1月現在)。

参考:「Mendeley講習会」テキスト <https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/text.html>

※東京大学所属者向けに作成されたものですが、文献管理ツールの概要はつかむことができます。

EndNote basic [無料版] (無料ツール)

<https://www.myendnoteweb.com/>

https://www.usaco.co.jp/endnote/endnote_web.html [ユサコ社解説ページ]

https://www.usaco.co.jp/Portals/0/lancelot/common_files/images/public/ENb_hikaku.pdf

[機能比較表]

※東大が契約しているデータベース「Web of Science」付帯の機関版とは機能が異なります。

卒業などで契約機関に所属しなくなった場合は、後日、機関版から無料版に設定が変わります。機関版と無料版の主な違いは、引用文献リスト作成時に使えるリストの書式の種類が機関版では3300種以上ですが、無料版では21種であること、またデータを直接取り込めるデータベースの数が機関版の方が多いことなどです(2021年1月現在)。詳細その他の違いは、上記[機能比較表]を参照ください。